



2025(令和7)年8月

なぎなた通信

第5号

発行責任者 会長

大谷翔平の言葉

みんなの力を
結集すれば必
ず勝てる

国スポ九州ブロック大会in長崎松浦市

滋賀国民スポーツ大会にむけた、九州大会少年女子競技試合の部が長崎県松浦市で8月24日に開催されました。

会場の松浦市文化会館前は、2014年に開催された第69回長崎がんばらんば国体なぎなた競技が行われた会場でした。

会場の横には、「あの感動をいつまでも！なぎなたのまち松浦」の看板と、二本のなぎなたを交差させたモニュメントが建立されていました。

開会式では、名誉会長で松浦市長の友田吉泰様が大会長挨拶兼歓迎の言葉を述べられたあと、審判長の中村ゆり子様より「礼儀正しく、基本にそった試合展開を期待します」という、なぎなた競技らしい激励の言葉がありました。

いよいよ競技開始です。試合は、8チームの総当たり戦方式で、一日に7試合をほとんど休みなく行うというハードな大会です。

会場は試合開始早々、熱気に溢れなぎなた競技特有の応援合戦が始まりました。勝敗を分けるのは、戦略・戦術だけでなく、気力、体力そして集中力に勝ったチームが栄冠を勝ち取ると思われます。

さて、わがチーム沖縄に勝利の女神は微笑んでくれるでしょうか。

競技役員たちから試合の展望を伺うと、総当たり戦の試合は、最初の立ち上がりが大切で、1試合目がどこにあたるか、そこで、波に乗れるかがカギだと話していました。

我が沖縄チームは、1、2試合目は、

チームとの対戦なので、少し余裕をもつ



大会長挨拶を
する友田松浦市長

て観戦することができました。2試合とも3対0で圧倒して勝利しましたが、3試合目は、先月沖縄合宿に来ていた福岡との対戦です。戦前の予想では、**と聞いていましたが、2対1と少し肝をつぶす試合展開でした。**4試合目は、3対0で余裕の勝利でした。

5試合目は、瑞慶山監督が要注意と目していた大分チームとの対戦です。

「ここに勝てれば、いける」という監督の思惑で臨んだ試合でしたが、先鋒の上原が、メン二本をとられ危機に？

そこで、次鋒の宮城が延長戦に入ってすかさず、メンを取って大将戦に持ち込んだため、少し安心して大将戦を見ていきました。

しかし、相手も必死です。いきおいや技の数では勝っているので、残り一秒まで1本を期待していましたが、敵もさるもので手ごわい相手だったため、判定勝ちでなんとか、常勝街道を突き進むことができました。

6試合目は、3対0、勝本数も3本と圧倒して勝利しました。

いよいよ全勝どおしの試合です。佐賀チームは、国ス波を終えたばかりの勢いのあるチームです。どの試合もスピード、気迫溢れる試合展開をしており、対戦チームは圧倒されている感がしました。一方、沖縄チームは、どうかといえば、これまでの試合展開を見ると、本領を発揮できず、技のキレやスピードに「らしさ」が見えない状況でした。(素人の感想ですが?)

しかし、結果は、チーム沖縄が3対0で圧勝しました。先鋒の上原は、積極的な攻めから、繰り出す技も相手を上回り、なんなく判定勝ちし、宮城も開始直後に積極的な攻めを見せ、メンで貫録勝ちを収めました。大将の大木も気迫あふれる戦いで、スピードも一段とアップして、本来の大木選手の姿に戻ったような戦いぶりでした。

7戦を振り返ると、佐賀との対戦に照準を合わせたかのように、3選手とも(大げさに言えば)、人が変わったような試合展開をしていました。しかし、沖縄にあたるまでの佐賀の試合ぶりからすると、はじめはハラハラしながら観戦していましたが、次鋒のメンでドキドキに変わり、大将戦では、ワクワクしながら観戦しました。

なぎなたチームも沖尚に負けず、沖縄旋風を巻き起こしました。

(会長の勝手な観戦記です。)



試合前の闘志あふれる
面々です。やったるぞー



沖縄県スポーツ協会の副会長
山入端さんと事務局の皆さんも
応援に来ていましたよ !!
ありがとう



九州大会二連覇おめでとう !!

